

Tidal Enterprise Scheduler : 「stty::No such device or address」エラーメッセージを Unix 用スクリプトの実行時に受信

内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[問題](#)

[解決方法](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、sttyを解決する方法について説明: no such device or address()エラーメッセージが表示されます。

前提条件

要件

Tidal Agent 3.0以降をインストールすることをお勧めします。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、Tidal Windows Agentバージョン3.0以降に基づいています。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期 (デフォルト) 設定の状態から起動しています。対象のネットワークが実稼働中である場合には、どのようなコマンドについても、その潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

問題

Unixエージェントでスクリプトを実行する場合は、stty::no such device or address, stty:ioctlまたは同様のエラーが発生しました。通常、スクリプトは正常に完了します。ただし、このエラーはジョブ出力に返されます。

解決方法

スクリプトが **stty** コマンドを使用する場合は、これらのエラーが表示されます。最も簡単な解決策は、スクリプトが対話形式 (つまりコマンドラインから) で実行されている場合にのみ実行する `if` に、これらのステートメントを含めることです。

以下に、いくつかの例を示します。

```
if [ `tty | grep -ci not` -eq 0 ]
then
  stty erase ^\h kill ^u intr ^c          # workstations
  stty echoe echok ixon ixoff -ixany
  stty erase ^\?
  stty erase ^h kill ^u intr ^c
fi
```

簡単に言うと、**stty** コマンドを非インタラクティブ環境で実行することはできません (cronジョブとしてスクリプトを実行する際に発生する問題に似ています)。

注：上記の例は、Solaris 8システムで開発およびテストされており、実行しているシェルに応じて変更が必要になる場合があります。このコードは例としてのみ提供されています。

[関連情報](#)

- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)